

# 新丸山ダム周辺地域振興ビジョン

令和5年3月

新丸山ダム水源地域協議会

## はじめに

新丸山ダム建設事業は、木曾川中流の岐阜県加茂郡八百津町及び可児郡御嵩町に位置する既設丸山ダムを嵩上げすることにより、洪水調節・発電の強化に加え、新たに河川環境の保全等のため流水の確保を目的とする多目的ダムとして建設するものである。

1980（昭和 55）年から実施計画調査として、ダムサイトの詳細な地質調査や概略設計のほか、関係者との調整を進める中で、1983（昭和 58）年 9 月に台風 10 号と秋雨前線により戦後最大規模の洪水が発生し、美濃加茂市、坂祝町等において越水などによる甚大な被害に見舞われた経緯もあり、1986（昭和 61）年から建設事業に着手した。

これまでに、用地取得や家屋移転を概ね完了し、付替道路や工事資機材運搬路等の整備を進め、2021（令和 3）年 12 月よりダム本体工事に着手している。

新丸山ダムの建設が本格化する中、丸山ダム周辺における自然・文化・伝統等の地域資源とともに、新丸山ダム建設に伴う基盤整備等を活用し、ダム周辺地域の振興に資する効果的な施策を検討する場として、2017（平成 29）年 8 月に瑞浪市、恵那市、八百津町、御嵩町と新丸山ダム関係機関（関西電力株式会社及び国土交通省（木曾川水系ダム統合管理事務所・新丸山ダム工事事務所））で構成される「新丸山ダム水源地域協議会」を設立した。

新丸山ダム水源地域協議会では、地域事業者や旅行業等の関係者の意見も取り入れながら、社会の変化や地域の特徴を分析し、中長期的・広域的な視点に立って、様々な主体と幅広い分野において連携を図り、ダム周辺地域の魅力を高め、地域の満足度を継続的に高める地域振興についての基本的な考え方を「新丸山ダム周辺地域振興ビジョン」としてとりまとめた。

# 新丸山ダム周辺地域振興ビジョン

## 目次

第1章 新丸山ダム周辺地域を取り巻く社会の変化.....	1
1. 社会情勢の変化.....	1
(1) 少子高齢化のさらなる進行.....	1
(2) ライフスタイルの変化.....	1
(3) デジタル社会の進展.....	2
(4) カーボンニュートラルへの対応.....	2
(5) 水災害の頻発化・激甚化.....	3
2. 周辺環境の変化.....	4
(1) 新丸山ダム建設事業に伴う交通インフラの整備.....	4
(2) リニア中央新幹線及び新駅整備の計画.....	4
3. 新丸山ダム建設事業の目的.....	5
第2章 新丸山ダム周辺地域の主な特徴.....	6
1. 新丸山ダム周辺地域の強み.....	6
(1) 豊かな自然環境.....	6
(2) 固有の歴史・文化.....	6
(3) 充実した交通インフラ・ネットワーク.....	8
(4) 国内外に発信できる価値の高い観光資源.....	8
2. 新丸山ダム周辺地域の課題.....	9
(1) 観光スタイル.....	9
(2) 受け入れ体制.....	9
(3) 観光資源の連携.....	9
第3章 新丸山ダム周辺地域の目指す地域振興.....	10
1. 基本的な考え方.....	10
2. 目指す地域振興.....	10
(1) 資源を磨き、発掘し、つなげる（魅力を高める）.....	10
(2) 来訪者や関係人口を増やす（人を集める）.....	10
(3) 地域経済の好循環を生み出す（消費の活性化）.....	11

第4章 地域振興の実現に向けて .....	12
1. 基本的な考え方 .....	12
2. 魅力をつなぐプロジェクト .....	12

※新丸山ダム周辺地域振興ビジョンの対象地域

主として、瑞浪市、恵那市、八百津町、御嵩町の2市2町

## 第1章 新丸山ダム周辺地域を取り巻く社会の変化

### 1 社会情勢の変化

#### (1) 少子高齢化のさらなる進行

- ・我が国の人口は 2008（平成 20）年をピークに減少に転じており、全国的に高齢化率が増加し、生産年齢人口が減少している。岐阜県の総人口は、2015（平成 27）年の 2,032 万人から 2045 年は 1,557 万人のマイナス 23%、生産年齢人口も 2015 年の 1,185 万人から 2045 年は 784 万人のマイナス 34%に減少すると推計されており、総人口・生産年齢人口ともに減少率が全国平均より大きい傾向にある。
- ・上記と同じ期間内で、瑞浪市・恵那市・八百津町・御嵩町（以下、2 市 2 町という）においては、総人口でマイナス 33%、生産年齢人口でマイナス 45%と推計されており、全国及び岐阜県の傾向に比べると減少率が大きくなると推定されている。
- ・2 市 2 町の高齢化率は、10%上昇すると推定されており、全国の増加率及び岐阜県の増加率傾向に比べると増加率が大きくなると推定されている。
- ・一方、在留外国人の人口は、2012（平成 24）年から 2021（令和 3）年までの約 10 年間で、全国では約 1.4 倍、岐阜県では約 1.3 倍に増加しており、2 市 2 町では全国や岐阜県を上回る約 1.5 倍に増加している。一方、新型コロナウイルス感染症が発生した令和元年以降は、ほぼ横ばいである。

#### (2) ライフスタイルの変化

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大を踏まえ、テレワークの導入が急速に進むとともに、企業では BCP の観点からオフィスの地方分散が行われるなど、働き方は大きく変化している。
- ・働き方の変化とともに、近年では都市部で仕事をしながら地方部で魅力ある暮らしを実現するなど、主な生活拠点とは別の特定地域に生活拠点を設ける二地域居住が注目され、地方暮らしへの関心やニーズ、機運がさらに高まっている。
- ・観光業では、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、宿泊、飲食、バス・タクシー等の利用者が大幅に減少し、経営に大きな影響が出ている。このため、自宅から 1～2 時間程度の近場の旅行「マイクロツーリズム」による地元の魅力再発見や、ワーケーションの実施など、新たなニーズに対応した地域振興が注目されている。
- ・ライフスタイルの多様化が進展するにつれ、個人の時間の使い方や興味、人生観や価値観も多様化し、豊かで魅力ある地方への関心が高まる素地が形成されつつある。
- ・恵那市においては、移住定住のために「恵那くらしビジネスサポートセンター」を開設し、「就職や起業の相談から移住・定住など住まいに関する」サポートを展開している。
- ・瑞浪市、八百津町、御嵩町においては、公式 HP で移住に関する情報を発信している。

### (3) デジタル社会の進展

- ・IoT、5G、AI等のデジタル技術が革新的に向上し、バスやタクシーといった交通機関や物流サービスの自動運転、スマート農業、ネットショッピングなど様々なサービスが急速に展開され、一人ひとりの状況に応じたきめ細かいサービスや新たな体験が低コストで提供できるようになり、生活の利便性が向上している。
- ・人口減少や高齢化が進行する中で生産性の向上は不可欠であり、誰もが住みやすく、持続可能な社会をつくるため、デジタル技術を活用したスマートシティの取り組みが各地で広がりにつつある。
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により「人との接触を避ける」手段としてテレワークの必要性が高まった他、これまで対面で行われていた会議や打ち合わせのリモート化が日常的に行われている。
- ・八百津町ではオンライン観光ツアー、御嵩町ではリモート観光ツアーの動画配信、瑞浪市や恵那市ではデジタル観光パンフレットのHPでの公開等が行われている。また、SNS（Twitter、YouTube、Facebook、Instagram、LINE等）を積極的に活用し、デジタルコンテンツを通じて地域の魅力の発信や若い世代への情報発信を行っている。
- ・新丸山ダム建設事業では、調査・設計から維持管理までBIM/CIMを活用しつつ、3次元データの活用やICT等の新技術の導入を加速化させる『3次元情報活用モデル事業』に選定され、集中的かつ継続的に3次元データを利活用することで、事業の効率化・高度化を推進し建設現場における生産性の向上を目指している。

### (4) カーボンニュートラルへの対応

- ・世界の温室効果ガス排出量は増加し続けており、世界の平均気温は長期的に見ると、100年に0.75℃のペースで上昇している。2015年に採択されたパリ協定において、2020年以降の気候変動問題に関する国際的な枠組みが定められた。2020（令和2）年10月、我が国では、「2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言した。
- ・これらの地球温暖化対策の代表的な方策として、自然エネルギーの導入促進や公共交通機関の利用促進、次世代自動車の普及促進等が挙げられる。
- ・新丸山ダムにおいては、水力発電は地球環境の自然エネルギーであり、地球に優しいクリーンなエネルギーを生み出す。
- ・2市2町は、豊かな森林に恵まれており、CO<sub>2</sub>を吸収する緑豊かな地域である。地域振興や観光面に関しては、パーク＆ライド拠点の拡充やバスによる効率的なアクセス等、公共交通機関の普及や利用促進を行い、CO<sub>2</sub>排出量の削減を目指している。

#### (5) 水災害の頻発化・激甚化

- ・近年は毎年のように全国各地で豪雨による洪水や浸水被害、土砂災害等が多く発生している。
- ・近年 10 年間（2011～2020 年）の集中豪雨の平均年間発生回数は、統計期間の最初の 10 年間（1976～1985 年）の平均年間発生回数と比べて約 1.4 倍に増加している他、土砂災害も 2018（平成 30）年に過去最多となる 3,459 件発生するなど、頻発化している。
- ・新丸山ダム周辺地域では、瑞浪市で 2020（令和 2）年 7 月に豪雨による倒木や土砂災害等の被害が発生している。また、八百津町や御嵩町では 2010（平成 22）年 7 月の豪雨による床上・床下浸水や土砂災害等の被害が発生している。
- ・丸山ダムでは、2021（令和 3）年 8 月の豪雨により、管理開始以降 4 番目に大きいダムへの流入量を観測し、22 年ぶりに防災操作を実施した。丸山ダムの洪水調節により、木曾川の八百津地区地点（岐阜県加茂郡八百津町）では、約 0.6m の水位低下が見込まれ、災害リスクの低減に寄与した。
- ・気候変動の影響による水災害リスクの増大に備えるため、河川管理者が主体となって行う治水対策に加え、氾濫域も含めて一つの流域として捉えその河川流域全体のあらゆる関係者が協働し、流域全体で水害を軽減させる治水対策「流域治水」への転換が進められている。
- ・木曾川流域では、2021（令和 3）年 3 月に河川整備に加え、流域の市町村などが実施する雨水貯留浸透施設の整備や土地利用規制・誘導等、都道府県や民間企業等が実施する利水ダムの事前放流等の治水対策の全体像について「木曾川水系流域治水プロジェクト」として示し、ハード・ソフト一体となった事前防災対策を進めている。
- ・大雨の頻度が増加している一方で、渇水の頻度も増加している。地球温暖化に伴い、年ごとの降水量の変動幅が大きくなっており、さらなる洪水と渇水リスクの増大が懸念されている。

## 2. 周辺環境の変化

### (1) 新丸山ダム建設事業に伴う交通インフラの整備

- ・新丸山ダム建設事業により、恵那市と八百津町をつなぐ付替道路国道 418 号の整備を進め、2010（平成 22）年 3 月には一部区間の供用が開始されている。全線開通すると、八百津町から恵那市飯地町までの所要時間が約 40 分短縮するなど、安全性・アクセス性が大幅に向上する。
- ・瑞浪市と八百津町をつなぐ八百津町道十日神楽線及び県道大西瑞浪線（五月橋架け替え含む）は、付替道路国道 418 号を起点として整備が進められ、全線開通すると自動車による通行が可能となり、瑞浪市と八百津町の安全性・アクセス性が向上する。
- ・八百津町と御嵩町をつなぐ町道井尻大久後線（通称みたけエコライン）はダム建設に必要な資機材の運搬路として整備され、2008（平成 20）年 3 月に利用が開始され、工事用車両の通行に加え、地域の生活道路として利用されている。

### (2) リニア中央新幹線及び新駅整備の計画

- ・今後、リニア中央新幹線の東京・名古屋間の開業により、恵那市が隣接する中津川市に計画されている新駅（岐阜県駅（仮称））と東京は約 1 時間で結ばれる。現在、東京駅から恵那駅までの所要時間は約 3 時間であるが、約 1 時間 15 分でのアクセスが可能となり、これまでの名古屋圏へのアクセスとほぼ同時間で首都圏と結ばれる。
- ・2 市 2 町では、新丸山ダム建設事業による交通ネットワークの強化に加え、瑞浪市と恵那市をつなぐ国道 19 号瑞浪恵那道路の整備や、中津川市と恵那市の両市街地を結ぶ東濃東部都市間連絡道路が計画されている。



### 3. 新丸山ダム建設事業の目的

新丸山ダムは、木曾川中流の岐阜県加茂郡八百津町及び可児郡御嵩町において建設中の多目的ダムで、洪水調節、流水の正常な機能の維持並びに発電を目的としている。

#### ①洪水調節

新丸山ダムの建設により、洪水調節容量を増加させ、新丸山ダムが建設される地点における計画高水流量 10,000 m<sup>3</sup>/s のうち、4,300 m<sup>3</sup>/s の洪水調節を行う。

#### ② 流水の正常な機能の維持

新丸山ダムの建設により、新たに 15,000,000 m<sup>3</sup>の貯留が可能となり、渇水時に木曾川沿川の既得用水の安定化と河川環境の保全等を行うために必要な流水を確保する。

#### ③発電

新丸山ダムの建設により、既設の丸山発電所及び新丸山発電所において最大出力を 22,500kw 増加させ、最大出力 210,500kw の発電を行う。

## 第2章 新丸山ダム周辺地域の主な特徴

### 1. 新丸山ダム周辺地域の強み

#### (1) 豊かな自然環境

- ・2市2町は、見行山、秋葉山、笠置山等の1,000m級の山地が連なり、豊かな森林に覆われ、日本らしい美しい景観と豊かな水の供給源をなしている。
- ・2市2町が面する木曾川は、長野県の鉢盛山を源として飛騨川などと合流し、濃尾平野を流れ伊勢湾に注ぐ流域面積 5,275 km<sup>2</sup>、幹川流路延長 229 kmの我が国有数の大河川であり、長野県、岐阜県、愛知県、三重県を貫流し、肥沃な土壌と水の恵みを与えている。
- ・木曾川が作り出す蘇水峡・深沢峡・笠置峡・恵那峡等の峡谷は、飛騨木曾川国定公園や恵那峡県立自然公園等に位置し、春には桜、秋には紅葉が湖面に映え、四季折々の景色を楽しむことができる豊かな自然環境がある。
- ・山地地形を利用した坂折棚田（恵那市）や上代田棚田（八百津町）は、現在でも丁寧な管理保全が行われ、全国でも有数の美しい風景として日本の棚田百選に選ばれ、四季や気象条件によってさまざまな風景が生み出され、日本の原風景が残されている。
- ・これらの自然環境は、雄大な風土や風景、景観を形成し自然が生み出す芸術であるとともに、豊富な植物や生態系を育んでいる。

#### (2) 固有の歴史・文化

- ・江戸時代に整備された中山道が通る瑞浪市・恵那市・御嵩町では、商業集落として街道筋の大湫宿・細久手宿（瑞浪市）、大井宿（恵那市）、御嶽宿・伏見宿（御嵩町）を中心に栄え、国指定重要文化財である大寺山願興寺や国登録有形文化財の旧森川訓行家住宅・脇本陣等の貴重な文化財が数多く点在している。
- ・相生座（瑞浪市）や飯地五毛座（恵那市）は、江戸時代から現代に至るまで地域の人々によって演じられる地歌舞伎・地芝居が受け継がれ、地域の伝統芸能を継承している。
- ・岩村城跡（恵那市）は日本三大山城のひとつで、鎌倉時代から明治に至る廃城令まで約 700 年間に及ぶ日本の城史にも例を見ない長い歴史を有している。小里城跡・鶴ヶ城跡（瑞浪市）、明知城跡（恵那市）は、岐阜県の県指定史跡に登録されており、明智光秀を始めとする、偉大な歴史の魅力を感じることができる。
- ・人道の丘公園・杉原千畝記念館（八百津町）では、第二次世界大戦中にユダヤ避難民に対し、独断で日本通過ビザを発給したことで数千人もの命を救った元外交官「杉原千畝」の人道博愛の精神、命の大切さを発信している。
- ・国指定重要文化財である旧八百津発電所資料館（八百津町）は、木曾川水系初の本格的な発電所として建設され、明治・大正・昭和にかけての水力発電の歴史を伝えている。
- ・食文化では、秋の味覚である栗きんとんや地産地消の食材にこだわりを持ってつくられた五平餅は、2市2町に共通する代表的な特産品であり、県内外から多くの人が訪れている。また、瑞浪ポーノポークや地酒、八百津せんべい、みたけ華ずし、へぼ料理等、地域の風土と歴史に育まれた食文化を有している。

- ・これらの地域固有の歴史や文化は、社会の変化に応じ保護・活用がなされ、長く地域に親しまれ、暮らしの中でその周辺環境まで含めて、大切に受け継がれてきた貴重な地域資源である。

### (3) 充実した交通インフラ・ネットワーク

- ・2市2町は、名古屋市や岐阜市等の中部都市圏から、約1時間～1時間半でアクセス可能な地域である。自動車でのアクセス手段として、中央自動車道（瑞浪 IC、恵那 IC）が地域内を東西に横断している他、国道19号、国道418号、国道21号、東海環状自動車道等が主なアクセス道路である。公共交通機関は、JR中央本線、明知鉄道、名鉄広見線等が運行している。
- ・新丸山ダム建設事業により整備される東西を結ぶ付替道路国道418号（恵那市・八百津町）、南北を結ぶ町道十日神楽線及び県道大西瑞浪線（瑞浪市・八百津町）、県道井尻八百津線（八百津町・御嵩町）は、主要な道路として、2市2町の利便性は格段に向上し、交通ネットワークが強化される。
- ・今後、リニア中央新幹線の東京・名古屋間の開業に向け、中津川市に計画されている新駅（岐阜県駅（仮称））の周辺道路整備事業により、2市2町の交通ネットワークはさらに広がり、首都圏や大都市を含む広域交通ネットワークが形成される。
- ・充実した交通インフラ・ネットワークにより利便性が高まり行動範囲が拡大することで「人」「物」「情報」の交流が活性化し、ライフスタイルの多様化につながり、新たな来訪者や移住者の増加が見込まれる。また、新たなビジネスチャンスが生まれるなど、幅広い分野で企業活動が促進することが期待される。

### (4) 国内外に発信できる価値の高い観光資源

- ・2市2町は、豊かな自然環境や固有の歴史・文化に加え、様々な食文化など、多様で豊富な観光資源を有している。
- ・観光客入込客数は、新型コロナウイルスの影響を除けば、年間500万人を上回り安定している。来訪者の属性は、高齢者や家族連れ、中山道を中心に外国人観光客の来訪が多い。
- ・瑞浪市では、農産物等直売所のきなあた瑞浪・ゴルフ場の観光客数が全体の約9割を占めており、次いで美濃源氏七夕まつりやサイエンスワールドへの来場者数が多い。
- ・恵那市では、市神神社で毎年1月7日に開催される七日市が岐阜県内の行事祭・イベント入込客数の第5位になるほど集客力がある。さらに市内に3か所ある道の駅（おばあちゃん市・山岡、そばの郷らっせいみさと、上矢作ラ・フォーレ福寿の里）を目的とした来訪者が約5割を占めており、次いで日本大正村や恵那峡への来訪者数が多い。
- ・八百津町では、杉原千畝記念館をはじめ、日本一の高さを誇る岐阜バンジーや五宝滝、めい想の森など、国内外を問わず多くの観光客が訪れる観光資源を有している。特に、杉原千畝記念館や人道の丘公園は、イスラエルなど外国人の来訪者数が多い。
- ・御嵩町では、四季折々の風を感じることでできるゴルフ場への来訪者が半数以上を占めており、次いで飛騨木曾川国定公園の一部である鬼岩公園や、中山道に関する資料や展示を見ることができる中山道みたけ館への来訪者数が多い。
- ・2市2町には、中山道と宿場町を始めとする国内外に発信できる多様な地域固有の観光資源があり、これらの観光資源をつないで情報発信することで、国内外からの観光客の増加が期待される。

## 2. 新丸山ダム周辺地域の課題

### (1) 観光スタイル

- ・2市2町を訪れる多くの来訪客は、名古屋圏等から自家用車で観光名所をスポット的にまわり、滞在時間が短く日帰りの観光が主流であるため、経済効果は低い傾向にある。
- ・国内外に発信できる多様な地域固有の観光資源を有しているが、観光資源が類似する他県と比べて地域固有の情報発信が弱く、差別化が課題である。

### (2) 受け入れ体制

- ・地域の飲食店や宿泊施設においては、団体客が来訪できる施設やサービス体制が限られており、団体ツアー客の受け入れ体制が困難な状況にある。
- ・来訪者は、公共交通機関が限られているため、自家用車での来訪がメインとなり、公共交通機関での移動手段が望まれている。
- ・海外からの来訪客に対して、多言語による情報発信や案内・誘導等の設備が限定的である。
- ・ダムの見学などの屋外観光がメインの観光では、雨天時に代替できる施設が必要である。

### (3) 観光資源の連携

- ・国内外に発信できる固有の観光資源を有しているが、地域間相互の周遊を促す情報発信や、連携したプログラムが限られている。
- ・2市2町と関西電力株式会社及び国土交通省（木曾川水系ダム統合管理事務所・新丸山ダム工事事務所（以下、ダム関係機関という））が、それぞれの観光資源の共有化を図り、強みを活かし、課題を補う役割分担など、連携する体制の構築が必要である。
- ・新丸山ダムをはじめとするインフラ施設を共通の観光資源として捉え、新たな魅力として活用することが求められている。

### 第3章 新丸山ダム周辺地域の目指す地域振興

#### 1. 基本的な考え方

- ◇豊かな自然環境や日本らしい美しい景観、固有の歴史・文化、価値の高い観光資源など豊富な地域資源を有する新丸山ダム周辺地域を一つの地域と捉え、資源を磨き、発掘し、つなげて周辺地域全体の魅力を高める。
- ◇2市2町とダム関係機関が魅力ある地域資源を共有し、地域間相互に補完・連携した活動と充実した交通・情報通信ネットワークの形成により周辺地域全体の満足度を向上させ、地域の寛容性を高め、国内外からの来訪者や移住者、地域や地域の人々と関わる人口を増やす。
- ◇「人」「物」「情報」の交流が活性化し、新たな来訪者や移住者の増加により消費行動が高まり、新たなライフスタイルへの適応により幅広い分野においてビジネスチャンスが生まれ、企業活動が促進され、持続的に地域経済の好循環を生み出す。

#### 2. 目指す地域振興

##### (1) 資源を磨き、発掘し、つなげる（魅力を高める）

- ・新丸山ダム周辺地域は、自然環境が豊かで、日本らしい美しい景観や懐かしい感情が芽生える原風景が残されている。歴史的に価値の高い貴重な文化財や地域の伝統芸能が数多く点在し、長く地域に親しまれ大切に受け継がれている。また、地域の風土と歴史に育まれた食文化は、食材や製法のこだわりが国内でも関心を高めブランド化が展開されている。
- ・このような多様で豊富な地域資源を有する新丸山ダム周辺地域の特徴を活かし、保有する地域資源をさらに磨きをかけて優れた資源に成長させ、新たな資源を発掘し育て、地域らしさを大切に、多様な資源をつなげてネットワーク化することにより、新丸山ダム周辺地域の魅力を高める。

##### (2) 来訪者や関係人口を増やす（人を集める）

- ・新丸山ダム周辺地域の高い価値を有する多様な資源を、関係する行政機関や経済団体等が共有し、それぞれが短所を補い長所を高める連携により、様々な取り組みに付加価値を与え周辺地域全体の満足度を高める。
- ・ライフスタイルの多様化やデジタル社会の進展により、過ごし方、暮らし方、働き方が大きく変化するとともに、充実した交通インフラ・ネットワークの形成により移動時間が短縮し行動範囲が拡大することで利便性は格段に向上し、地方への関心や興味が高まり、新たな来訪者や移住者を呼び込む。
- ・性別、年齢、国籍など、多様な人々が暮らしやすく、訪れやすい受け入れ環境の支援を広げ、異なる人生観や価値観、文化の多様化に対応する地域全体の寛容性を高める。
- ・安全・安心を創出する防災・減災対策やカーボンニュートラル、自然エネルギーの活用といった地球温暖化対策を進め、地域で暮らす人が豊かに暮らし、住みやすく、賑わいのある地域をはぐくむ地域振興により、自らの地域への愛着・誇りを醸成する。

### (3) 地域経済の好循環を生み出す（消費の活性化）

- ・国内外からの来訪者の消費を促すために効果的な情報発信力を向上し、サービス、製品の付加価値を高め消費行動を高める。
- ・新丸山ダム周辺地域の特徴を活かし、来訪者、メディアに認められるブランドを形成し、社会情勢の変化にあわせたターゲティング、ブランディングを行う。それを踏まえ幅広い分野において新しいニーズに対応したサービス、商品開発を行い、リピーターの創出につなげ持続的に地域経済の好循環を生み出す。

## 第4章 地域振興の実現に向けて

### 1. 基本的な考え方

- ◇新丸山ダム周辺地域の地域振興の実現に向けて、2市2町と新丸山ダム関係機関が中心となり、他の自治体や地域の事業者等の取り組みを意識し、総合的な効果が発揮されるよう、様々な主体と横断的に連携して地域振興を進める。
- ◇2市2町の連携により相乗効果が期待される地域振興施策については、具体的な行動計画として「魅力をつなぐプロジェクト」と位置づけ、行政、商工会、地域の住民等が組織や分野の垣根を越えた強固な協働により取り組みを進める。
- ◇新丸山ダム周辺地域の魅力を高め地域の満足度を継続的に高める地域振興は、木曾川流域内の連携と交流によるバランスの取れた流域圏の発展に寄与する。

### 2. 魅力をつなぐプロジェクト

- ・新丸山ダム周辺地域振興ビジョンに基づき、2市2町が連携して取り組みを加速化させる具体的な地域振興施策を「魅力をつなぐプロジェクト」として取りまとめる。
- ・連携する地域振興施策は、現状の地域資源を活かした施策に加え、将来的な構想や計画段階の施策も含める。
- ・プロジェクトは、新丸山ダム周辺地域協議会で組織する幹事会及びワーキンググループにおいて検討し、地域振興施策を実施する推進主体、体制、工程、プラン提供ターゲット、連携主体、連携する上での留意事項等をアクションプランとして取りまとめ実践していく。
- ・プロジェクトの取り組み状況は、協議会において継続的にフォローアップを行い、社会情勢の変化や地域のニーズ等を意識し、柔軟に追加、見直しを行い、持続可能な地域振興を展開する。



おわりに

**瑞浪市長 水野 光二**

瑞浪市と八百津町を繋ぐ五月橋の架け替えにより、観光・文化等の地域間交流が促進され、周辺整備事業と共に大きな効果を期待しています。

また、本ビジョンの策定により、各地のダム及び周辺観光地を活用したモデルルートや2市2町のイベントとのコラボなど、観光資源としてのダムの活用及びコンテンツ開発や、滞在型観光の開発等、工夫を凝らした地域振興が促進されることを期待します。

**恵那市長 小坂 喬峰**

新丸山ダム周辺地域振興ビジョンの策定にご尽力いただいた皆様に先ずもって感謝申し上げます。当地域は、豊かな自然や歴史・文化など豊富な地域資源を有しています。今後も、ダム関係機関のお力添えと2市2町の連携により、これらの地域資源を磨き、発掘し、つなげることで、地域の魅力を高め、地域経済の活性化が図られることを期待します。

**八百津町長 金子 政則**

新丸山ダム周辺地域は、古くより木曾川を通じ、人と物の往来を生み、共に発展してきた歴史があります。一方、少子高齢化や人口減少が進行し、地域の活力維持に様々な課題を抱えています。そのような状況の中で、ダムは本来の治水・発電・環境保全といった目的に加えて、地域資源の一つとして地域振興に貢献できる有効なツールの一つと考えます。本ビジョンが、地元住民のご理解とご協力により周辺地域全体の新しい価値の創造となることを期待します。

**御嵩町長 渡邊 公夫**

新たな技術を駆使し、着々と嵩上げ工事が進む新丸山ダムの完成は、私をはじめ御嵩町民の楽しみであり、常に注目しています。

前例のないダム再開発事業に係る2市2町が更に連携を強め、本ビジョンに則った様々な施策を展開していくことにより、この地域の経済、産業、観光など、幅広い分野の振興に結び付くことを期待しております。

**関西電力株式会社 東海支社長 小森 浩幸**

本ビジョンで新丸山ダム周辺地域が目指す地域振興の方向性が明確になりましたことは大変意義深いことと考えております。今後、本ビジョンにもとづく具体的な施策を策定、実行していく中で、新丸山ダム周辺地域の2市2町と新丸山ダム関係機関が有機的に繋がり、ダム周辺が持続的に魅力ある生き活きとした地域となることを期待しております。

＜新丸山ダム水源地域協議会 会員＞

(敬称略)

所属等	氏名
瑞浪市長	水野 光二
恵那市長	小坂 喬峰
八百津町長	金子 政則
御嵩町長	渡邊 公夫
関西電力株式会社 東海支社長	小森 浩幸
国土交通省木曾川水系ダム統合管理事務所長	渡邊 伸也
国土交通省新丸山ダム工事事務所長	加納 啓司